

Recurrence Rates of Inflammation after Switching from the Originator Infliximab to Biosimilar Infliximab-abda for Noninfectious Uveitis

Deaner JD, Srivastava SK, Hajj-Ali RA, Lowder CY, Venkat AG, Baynes K, Sharma S.
Am J Ophthalmol. 2021 May; 225: 172-177.
PMID: 32795432 DOI: 10.1016/j.ajo.2020.08.005

非感染性ぶどう膜炎におけるインフリキシマブからバイオシミラーインフリキシマブに変更後の炎症発作再発率

ベーチェット病はインフリキシマブの登場によって大きく視力予後は改善しましたが、インフリキシマブは高額であり患者さんの個人または日本の医療費に大きな負担となります。バイオ医薬品の後発品（バイオシミラー）は値段が安く、経済的な負担を大きく改善させる可能性があります。先発品からの切り替えによって炎症発作が出やすくなるのかが問題となります。

ご紹介する論文では 17 名の非感染性ぶどう膜炎におけるインフリキシマブからバイオシミラーであるインフリキシマブ abda に変更後の炎症発作再発率を調べたものです。結論として、インフリキシマブ abda に変更後 90 日以内に炎症発作が起きやすいという結果でした。しかし、バイオシミラーの種類は多く存在するため、全てのバイオシミラーが該当するかは分かりません。また切り替え時に免疫抑制剤を使用することで切り替え時の再発を予防できる可能性などもあり、今後も検討は必要ですが、安全に切り替えの方法が確立できれば大きく経済負担が軽減できる可能性があるのではと思います。

（担当者：東京医大 坪田 欣也）